

ほく と し と しょ かん
北 杜 市 図 書 館
ほく と し がっ こう と しょ かん
北 杜 市 学 校 図 書 館

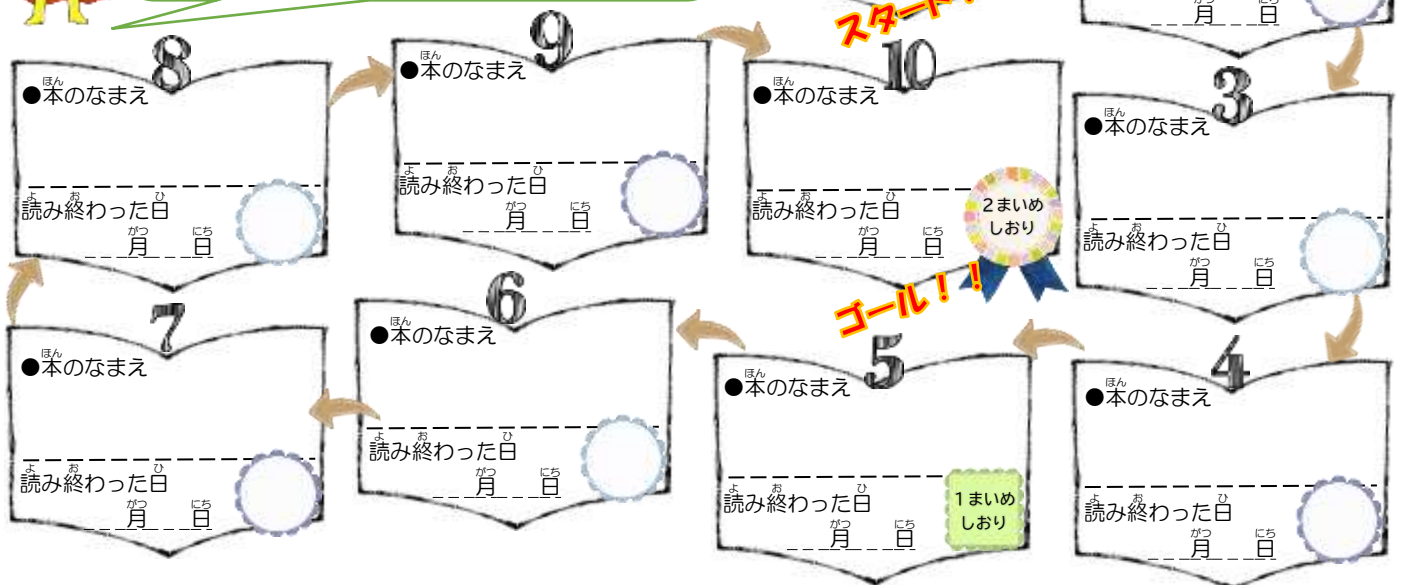
“読書マラソン”とは、“生涯にわたって本を読み続けよう”という意味。みなさんの長い人生の中で、“読書マラソン”はまだ始まったばかり。一生を42.195kmの長いマラソンに例えると、人生80年としてみなさんは、小学1年生で3km、6年生で6km、中学生で7kmをちょっと過ぎたあたりかな。マラソンで言えばまだまだ始まったばかりということ。この時期は、体を温めて自分のリズムを作る大事なとき。いまのうちにしっかり心を温めておけば、おじいちゃんやおばあちゃんになるまで、ずっと本と仲良しでいられる、心の根っこ作りや生活のリズム作りが出来るのです。

「たくさんの本と出会い、それらの本からいろいろな思いや考え、知識を吸収して大人になってもずっと本を大好きでいられる力を心にいっぱいためていってほしい」そんな願いを込めて、北杜市の学校図書館司書と公共図書館司書が、2021年7月～2022年9月に出た本の中から、小・中学生のみなさんにおすすめの本を選びました。今年もたくさん読んでね。

★読書マラソン スタンドラリー★

4月23日の「子ども読書の日」が読書マラソンのスタート！自分のペースで読みすすめよう！！

1から順にスタートして、10がゴール。
読書マラソン2023のコースだよ。
完走めざしてがんばってね！！
5さつ読むと1まい、10さつ読むともう1まい、しおりがもらえるよ。



小学校低学年向き

ことばコレクター

ピーター・レイノルズ/作

なかがわちひろ/訳 ほるぷ出版

ジェロームは、いろんなことばをあつめることばコレクター。ことばコレクションがふえるほどに、人にうまくつたえられるようになった。ことばのもつ力が、たくさんつまった一冊。

バスが来ましたよ

由美村 嬉々/文

松本 春野/絵 アリス館

病気で目が見えなくなったおじさんが何年もバスで仕事に行くことができたのは、小学生のやさしい声にたすけられていたから。子どもたちの間でうけつがれていった小さな親切のおはなし。

くみたて

田中 達也/作 福音館書店

よいしょ、よいしょ。小さな部品をみんなでくみだてるよ。できあがったのは、よく目にする身のまわりのもの。ここはミニチュアの世界。せんだくばさみがブランコにだいへんしん。ほかにはどんなものがへんしんするのかな？

いい一日ってなあに？

ミーシャ・アーチャー/作 石津 ちひろ/訳

BL出版

いい一日ってなんだろう？ダニエルは、いろんな人にたずねてみた。晴れわたっている日、ありがたうのあいさつが聞ける日、うれしそうな顔を見た日…。あなたのいい一日はどんな日？みんなのいい一日にいっぱい出会える絵本。

しんぱいなことがあります！

工藤 純子/作 吉田 尚令/絵 金の星社

ももは、いつも忘れ物がないかドキドキしている。友達のかずまくんはのんびりでマイペース。あなたはどちらのタイプかな？心配ごとがあったら、大きな声で笑ってみよう。全部ふきとんじょうよ。

きのこのこのこふしぎのこ

白水 貴/監修

新井 文彦ほか/写真
ひさかたチャイルド

しいたけ、なめこ、エリンギ…。食べておいしいきのこって、どうやってそだつのかな？私たちの家のそばや森にも生えている、きのこのふしぎを知ろう。

ことりのデパート

荻田 澄子/文

まるやま あやこ/絵
世界文化社

むぎわらぼうしを風に飛ばされたまいちゃんは、ハトと一緒にことりのデパートにぼうしを探しにやって来た。おしゃれフロアやレストラン、ほんやさんもあるよ。ステキなことりのデパートでぼうしは見つかったかな？

まっくらあそびしようよ！

はた こうしろう/作

ほるぷ出版

きょうは、おばあちゃんのおうちのやねうらべやで、おとまり。まっくらすぎてねむれないぼくに、お兄ちゃんが教えてくれたのは、まっくらだからできる楽しいあそび。みんなもいっしょに、まっくらあそびしてみない？

木のロボットと丸太のおひめさまのだいぼうけん

トム・ゴールド/作 金原 瑞人/訳 ほるぷ出版

木のロボットと丸太のおひめさまは、なかよし兄妹。でも、妹のおひめさまにはひみつがあって、あるときお城からいなくなっちゃった。ロボットは妹をおいかけて国をとびだした！ぶじにお城にもどれるのかな？

ここがわたしのねるところ

一せかいのおやすみなさいー

レベッカ・ボンド/文 サリー・メイバー/作画

まつむら ゆりこ/訳 福音館書店

世界のおともだちは、どんなところでねむりにつくのかな？草原のベッド、ゆらーりハンモック、ふねのおうち…。とってもきれいな色のししゅうとフェルトでいろいろな国のねるところを見せてくれるよ。

小学校中学年向き

かずさんの手

佐和 みずえ/作

かわい ちひろ/絵 小峰書店

みかは、ひいおばあちゃんのかずさんが大好き。ある日みかは、かずさんがたくさん人の手を握った話を聞くことに。それは、長崎に原爆が落とされた日のことだった。

ぼくちのねこのはなし

いとう みく/作

祖敷 大輔/絵 くもん出版

一真のうちのねこのことは16才。人間でいうと80才のおじいちゃん。そんなことが、なおらない病気にかかってしまった。ことらのためにできることは何だろう。「命」って何だろう。

タヌキの土居くん

富安 陽子/作 大島 妙子/画

福音館書店

土居くんは、教室の黒板の上にある今学期の目標“なかくよく、元気に、しょうじきに！”を守るため、正直になろうと決めた。さんかく山のふもと、の小さな学校、山下小学校のゆかいなお話。

はっこう 地球は微生物でいっぱい

小川 忠博/写真・文 あすなろ書房

「発酵」によって作られる納豆やチーズ、お酒などは、さまざまな種類の微生物のおかげで出来ている。そんな発酵になくてはならない働きものの微生物の秘密が、美しい写真とともに紹介されている。

キツネ 命はめぐる

イザベル・トーマス/文 ダニエル・イグナス/絵

青山 南/訳 化学同人

林でくらすキツネの親子は、食べものをさがしに町へ出かけた。ところが、親ギツネは車にはねられてしまい…。キツネの死を通して、命が生まれ変わる様子をやわらかい色合いでえがいた絵本。

サクラ はる なつ あき ふゆ

おくやま ひさし/作

ほるぷ出版

この本には1年間、サクラの木を観察した記録が、わかりやすい絵と言葉で描かれている。春だけでなく、季節によっていろいろな表情を見せてくれるサクラの木を、あなたもじっくり観察してみては？

ながみちくんがわからない

数井 美治/作 奥野 哉子/絵

BL出版

私は、クラスメイトのながみちくんがさっぱりわからない。だから研究することにした。一緒に石けりしながら帰って、ながみちくんの事がわかりかけた。気になる友達の内持ちが知りたくなる本。

シェフでいこうぜ！

上條 さなえ/作 磯崎 圭主/絵

国土社

大斗の父ちゃんはタクシーの運転手。だけど最近、コロナのせいか元気がない。そんな父ちゃんをはげまそうと、大斗は父ちゃんのふるさと沖縄の料理「てびち」作りに挑戦するが、家族のあたたかな物語が描かれた一冊。

ハタハタ 荒海にかがやく命

高久 至/写真・文 あかね書房

冬の秋田県の荒れた海にやってくるハタハタ。大きな目と胸ビレ、上を向いた口をもち、ウロコのない不思議な魚。その産卵からふ化までを初めてとらえた写真絵本。

めねぎのうえんのが・が・ガーン！

多屋 光孫/文・絵 合同出版

めねぎ農園の社長さんは、自分の教え方のせいで、障害のある人がうまく働けず「が・が・ガーン」とショックを受ける。でも、教え方を変えたら伝わった。人に何かを伝えるときの大切なポイントがわかるよ。

小学校高学年向き

人魚の夏

嘉成 晴香/作 あかね書房

転校生の海野夏は人魚の子。その秘密を唯一知っているちーくん。始めは人気者の夏だったが、徐々にクラスメイトとの友だち関係に溝が生じる。夏の未来を守るために、ちーくんがとった行動とは？

火の山にすむゴリラ

前川 貴行/写真・文
新日本出版社

アフリカのジャングルに住む野生のゴリラを4年間追いつけ、見えてきた群れの暮らしを伝える写真絵本。カメラマンの感動と興奮、ゴリラの肉体の強さや美しさ、そして優しさが伝わる。

タブレット・チルドレン

村上 しいこ/作
さ・え・ら書房

ひとり1台タブレットを使っているのは「タブチル」。それはAIの子どもをペアで育てるということ。まんが家志望の心夏と、わが道を行く温斗が授かったのは、口の悪い小学生のママ。果たして二人の子育てのゆくえは？

日本のことばずかん 1 かず・2 いろ・3 そら

神永 暁/監修 講談社

古くから伝わることばには、今の私たちにとってなじみのないものがたくさんある。そのことばを美しい写真や絵とともに紹介。見て楽しいビジュアル日本語ずかん。

オオムラサキと里山の一年

夏の雑木林にかがやく、日本の国蝶
筒井 学/写真と文 小学館

自然豊かな雑木林でしか出会えないチョウ「オオムラサキ」。成虫の美しさはもちろんのこと、幼虫のかわいらしさも魅力のひとつ。里山とオオムラサキの一生を追いかけた写真絵本。

神社のえほん

羽尻 利門/作 あすなろ書房

初詣や夏祭りになると訪れる神社。ぼくたちの身近にあるけれど、「そもそも神社って何？」と思ったぼくは、おじいちゃんに聞いてみた。歴史から役割まで、神社のすべてがわかる本。

オイモはときどきいなくなる

田中 哲弥/著 福音館書店

オイモは小3のモモヨが生まれる前からいるおばあちゃん犬。だからモモヨとオイモはとっても仲良し。そのオイモがいなくなるたびにモモヨは探しに行くけれど…。オイモはどこに行ったんだろう。いったいどこにいるんだろう。

じいちゃんの山小屋

佐和 みずえ/作 小峰書店

小学6年生の航太は父親と大げんかして、四国のじいちゃんの家で暮らすことになった。そこは電気も風呂もトイレもない山小屋だった。初めての出来事に戸惑いつつ、山での生活を楽しむ航太だったが…。

ヒナゲシの野原で

戦火をくぐりぬけたある家族の物語

マイケル・モーパーゴ/作 マイケル・フォアマン/絵
佐藤 見果夢/訳 評論社

戦場で友を亡くした兵士が詠んだ詩にうたわれている“ヒナゲシの赤い花”。それは後に、戦死者を追悼し、また戦争で傷ついた人々を支援するための象徴となった。平和への祈りを込めた物語。

しらべるちがいのずかん

おかベ たかし/文 やまで たかし/写真
東京書籍

ふだん目にする様々なもの。その違いって何？そこに気付くとこんなに面白い。2つのものの意外な違いを見比べる雑学図鑑。

中学生向き

街どろぼう

junaida/著
福音館書店

山の上で一人孤独に暮らす心優しい怪物。寂しさのあまりふもとから家を一軒、また一軒と持ち帰り、やがて山の上は賑やかに。しかし怪物は…。周りに人がたくさんいれば、怪物は孤独ではなくなるのかな？

シリアからきたバレリーナ

キャサリン・ブルートン/作
尾崎 愛子/訳 偕成社

シリアから戦火を逃れ、イギリスにきた少女アーヤ。母と幼い弟と難民認定を待つ日々の中、好きなバレエを通じて明るい友と先生に出会う。つらい過去を乗り越え、未来へと歩み出す少女の物語。

パンに書かれた言葉

朽木 祥/作
小学館

13歳の少女エリーが、母親の故郷イタリアと父親の故郷広島への旅を通して、親族から戦争の事実を学んでいく物語。死にゆく叔父パオロがパンに書いた言葉の意味とは。最後まで心揺さぶられる一冊。

人類がもっと遠い宇宙へ行くためのロケット入門

小泉 宏之/著 インプレス

宇宙はどんなところ？ロケットの仕組みは？宇宙旅行が身近になってきた今、いつか行くときのために知っておきたい基礎知識を、写真やイラストで分かりやすく解説した一冊。

手術をする外科医はなぜ白衣を着ないのか？

色の不思議を科学する

入倉 隆/著 日経 BP 日本経済新聞出版

「緑や青の手術着が患者を守る」「透明感のある肌の秘密」「スイカに黒いシマシマがあるのはなぜ」といった、色にまつわる不思議を解説。色を楽しめるのは人間だけなのかも。

マイブラザー

草野 たき/著
ポプラ社

夢も友だちもなく、暴れん坊5歳児の弟・総也の面倒をひたすら見るイクメン中学生、海斗。イクメン生活を必死に守りたい男子の日々は、笑って悩んでちょっぴり泣ける！

13歳からの地政学

カイソクとの地球儀航海

田中 孝幸/著
東洋経済新報社

みなさん、地球儀を見てほしい。なぜこの国は貧しく、あの国は核を持つのか。それをひも解くヒントは地理にあった！中高生の兄妹に向けてカイソクが行う講義から、世界の成り立ちが見えてくる。

図書室のはこぶね

名取 佐和子/著
実業之日本社

体育祭で沸き立つ野亜高校。花音が図書室で見つけたのは、10年前からずっと貸出中だった返却主不明の一冊の本。そして暗号めいた紙切れ。同じ図書当番の朔太郎と秘密に迫るが。

目の見えない白鳥さんとアートを見にいく

川内 有緒/著 集英社インターナショナル

全盲の白鳥さんと巡るアートの旅は、想像以上に面白い！一枚の絵を前に、自由に発言する同行者たちの会話を聞いて楽しむ白鳥さん。障害者への理解と、アートに対する思いがあらわれる一冊。

世界が驚く日本のすごい科学と技術

日本人なら知っておきたい

左巻 健男/編著 笠間書院

全身麻酔、カーナビ、青色LED、新幹線、QRコードなどの、日々私たちが目にしている日本で発明された科学技術を年代順に解説。どこを読んでもタメになる！

中学生向き

階段ランナー

吉野 万理子/著
徳間書店

階段マニアの元教師が綴るブログをきっかけに、それぞれ悩みを抱えていた2人の高校生の心が動き出す。そして、京都駅大階段レースへの挑戦が始まる！

立ち止まったままではなく、前に進むんだ！

「オードリー・タン」の誕生 だれも取り残さない台湾のIT 相

石崎 洋司/著 講談社

2016年、35歳で台湾史上最年少の大臣に抜擢されたオードリー。トランスジェンダーでもあるオードリーは、いったいどんな人生を歩んできたのか。「誰も取りこぼさない」「新しい民主主義」を目指すオードリーの伝記物語。

はじめての

島本 理生・辻村 深月 他/著
水鈴社

「はじめて」をテーマにしたアンソロジー。4人の直木賞作家が描いたそれぞれの作品を元に、アーティストYOASOBIが楽曲を作った。YouTubeなどから聞くことができる、音と視覚の両方を楽しめる一冊。

ライトニング・メアリ

竜を発掘した少女

アンシア・シモンズ/作 布施 由紀子/訳
岩波書店

12歳で、世界で初めてイクチオサウルスの化石を発掘したメアリ・アニング。まだまだ性別による差別や貧富の差が激しかった19世紀に、その逆境に抗い、化石を発掘し続けた彼女の功績を讃える物語。

さばの缶づめ、宇宙へいく

鯖街道を宇宙へつなげた高校生たち

小坂 康之/著 林 公代/著
イースト・プレス

水産高校に通う生徒の「さば缶を宇宙に飛ばせるんちゃう？」の一言から始まった宇宙食さば缶の開発。誰もが無理だと思っていたが、努力と情熱を受け継ぎながらさば缶を宇宙へと押し上げた。

ペイント

イ・ヒヨン/著 小山内 園子/訳
イースト・プレス

「子どもが親を面接して選ぶ」という近未来が描かれている韓国で話題のYA小説。主人公の17歳の少年は、ペイント（ペアレンツ・インタビュー）を通して自分の存在意義を模索する。彼が出した結論は？

目で見ることばで話をさせて

アン・クレア・レゾット/作
横山 和江/訳 岩波書店

マーサズ・ヴィンヤード島は耳が聞こえない住人が多く、島民は誰もが手話で会話ができた。11歳のメアリーも不自由なく暮らしていたが、ある日島に科学者が現れたことにより、彼女の生活が変わっていく。

ギソク陸上部

舟崎 泉美/著 山下 白/原案
学研プラス

走ることが大好きな主人公は、ユーイング肉腫というがんにかかり右足を切断した。不慣れな義足、前のように戻れない友達関係に悩む中、義足のパラリンピアンに出会い変わっていく。思わず応援したくなる作品。

JK、インドで常識ぶっ壊される

熊谷 はるか/著 河出書房新社

美味しい食べ物や動植物との共存、そしてスラム街の貧困。それは、今まで自分が抱いていた“インド”とは全く違っていった。女子高生のインド生活を追体験して、君の常識もぶっ壊せ！

最近、地球が暑くてクマってます。

シロクマが教えてくれた温暖化時代を幸せに生き抜く方法
水野 敬也/著 長沼 直樹/著 文響社

シロクマの一番のクマリごとは、地球温暖化がすすむこと。地球温暖化を食い止める方法を、かわいいシロクマが、楽しく分かりやすく教えてくれる。まずは知ることから始めよう。



発行日：2023年4月23日
編集・発行：北杜市図書館・北杜市学校図書館

☆ 読書マラソンスタンフラリー ☆



1から順^{じゆん}にスタートして、10がゴール^{ごーる}。
読書マラソン2023のコースだよ。
完走めざしてがんばってね！！
5さつ読むと1まい、10さつ読むともう1まい、
学校図書館か北杜市の公共図書館で“しおり”がもらえるよ。
自分のペースで読みすすめよう！

1

●本のなまえ

読み終わった日
____月____日

スタート

2

●本のなまえ

読み終わった日
____月____日

3

●本のなまえ

読み終わった日
____月____日

10

●本のなまえ

読み終わった日
____月____日

ゴール!

4

●本のなまえ

読み終わった日
____月____日

5

●本のなまえ

読み終わった日
____月____日

しおり
ゲット!

6

●本のなまえ

読み終わった日
____月____日

9

●本のなまえ

読み終わった日
____月____日

8

●本のなまえ

読み終わった日
____月____日

7

●本のなまえ

読み終わった日
____月____日

